

取組・活動名		自己を見つめて ～自分自身の夢や希望について考える～			
校種・学年		中学校・全学年		教科等	道徳
カテゴリー	歴史・意義	アスリート	多様性	日本人	時間・学期等
	国際感覚	ボランティア	伝統・文化	(その他)	準備等
1時間 3学期2月					
ホワイトボード、ワークシート、SAITAMA PRIDE 認定書					
プログラムのねらい					
オリンピック教室で学んだことを振り返り、「オリンピック精神の教育的価値」を自分自身のこれからの学習・学校行事・部活動や将来の夢や希望を実現させるために活かしていこうとする意欲や態度を育成していく。					
児童・生徒の実態					
生徒は日々の授業や部活動、体育祭・合唱祭といった学校行事にしっかりと向き合い、お互いに協力・切磋琢磨し合いながら学校生活を過ごしている。しかし、個々が目指している目標達成に向けての、強い意志や具体的な方策に乏しい現状も見られる。					
プログラムと既存の学習との関わり					
○生徒はオリンピック教室を体験した。これは教師役のオリンピックが、自らのオリンピック出場に至るまで、そしてオリンピックに出場して得た貴重な経験を通して、「努力から得られる喜び」「忍耐」「克己」「自律」「フェアプレー精神」「自尊の高揚」「他者への敬意」「友情」等といったオリンピック精神の教育的価値を伝えるものである。本プログラムは、このオリンピック教室で学んだことを、自分自身の生き方に活かしていくために、道徳の授業に組み入れたものである。					
指導計画・評価規準					
【指導計画】					
教科・領域					
道徳（1時間扱い）「オリンピック教室で学んだことを自分の現在・将来に活かそう」					
※ 詳細については、本時の学習指導を参照					
【評価規準】					
(1) 学習方法に関すること					
① 各グループが、主体的で対話的なグループ学習活動に取り組むことができる。					
② 個々の深い学びから、自らの考えを文章に表現することができる。					
(2) 自分自身に関すること					
① 生徒一人一人が、「オリンピック教室」で学んだ価値を活かし、自分の夢や希望に繋がる思いや願いを文章に表現し、発表できる。					
(3) レガシー創出事業に関すること					
① 各グループが、オリンピック教室で学んだ価値について、話し合い活動を通して振り返り、それらの持つ大切さについて理解することができる。					

本時の学習指導

(1) 本時の目標

オリンピック教室を活かし夢と希望に挑戦する心の育成を図る。

(2) 展開

◎オリンピック教室で学んだことを自分自身に活かそう。

〈導入〉

① オリンピック教室を振り返る。

・オリンピック教室の授業を振り返らせ、本時に臨む意欲を醸成させる。

〈展開〉

① グループでオリンピック精神の教育的価値を話し合う。

・4人1組のグループ学習の中で、主体的・対話的に活動させる。
・T1、T2が分担しての机間巡視を通して、活発な話し合いを促したり、称賛するなど肯定的な評価を行う。

② グループの代表が、自分達の学んだオリンピック精神の教育的価値を発表し、その他のグループは発表を聞く。

・代表者には、話の内容がよくわかるような話し方になるように支援する。

・黒板に、グループでまとめた文章が書かれたホワイトボードを掲示する。

③ 各グループの発表を活かして自分の思いや願いを書く。

・選択した価値を活かし、自分の思いや願いを文章にする場を設定する。

・T1、T2が分担しての机間巡視を通して、書くことが難しい生徒の支援にあたる。

④ ペアを作り、お互いに自分の思いや願いを伝え合う。

・T1、T2が分担して机間巡視を行い、ペア活動を促したり、活動状況を称賛したりする。

⑤ 複数の生徒が、自分の思いや願いについて発表する。

・発表者の話をしっかりと聞かせる。

⑥ SAITAMA PRIDE アンバサダーに認定されることについて知り、使命感をもつ。



友達と交流する



人の話を聞く



自分の考えを書く



考えを伝え合う

成果

○オリンピック教室でオリンピックから指導を受けた「オリンピック精神の教育的価値」を活かして、将来の自分の姿、そこに至るまでの現在や今後やるべき事等を具体的に考え、書き、発表した。そこから自分自身の将来の夢や希望に向けて、今後やるべき事を見通したり、その実現に向けて強い意志をもつことの大切さを学ぶことができた。

おすすめポイント

○オリンピック教室で学んだ教育的価値を、自らの生き方に活かしていくことで、夢や希望に挑戦していこうとする意欲や態度が育成され、その実現に繋がる。

“次代に語り継ぐ”ポイント

○2020年の東京オリンピックやパラリンピックを、自分の生き方に活かす「学びの目」で観戦できる生徒の育成が期待できる。